

「どんぐり山行通信」第85号
ひなたやま
日向山 (1660m)

2013年10月19日
(曇り)
参加者 15名

鶴ヶ島



どんぐり山行会

気持ちのいい山道だ



周囲の山も色づいてきた



雁ヶ原の山頂は白砂



落ち葉もいい色に



奇妙な岩山、遠くに八ヶ岳



後ろが「八ヶ岳」



朝のバスが、圏央道から中央高速に入ったらポツリときた。遠くの山々を見ると、山頂付近にはどんよりと霧がかかっている。登山口に着くと、曇り空ながらあかるい空になった。登り始めると人気の山らしくすれ違う「仲間」も多い。見知らぬ人同士が互いに「チワー」と声をかけあふ山ならではの挨拶(*_*) 最初から急こう配の山道だった。約2時間程度で「日向山」山頂へ着いたが、ここは林の中で、三角点はあるが見晴らしが無いので脇を通り過ぎる。さらに進むと白い砂原の「雁ヶ原」に到着した。しかし！濃霧の中で周囲が全く見えない。霧の中でお昼をすませると、だんだんと周囲の霧がとれてきた。順次現れた異様な風景に全員びっくり。周囲は白砂と岩肌がむき出しの風景である。この白砂は、当会「山行案内」の通り「花崗岩の風化したもの」ということだが手に取るとさらさら。本当に不思議な光景だ。だんだん遠くの山々も見え始める。紅葉の始まった手前の山々もいいが、なんといっても圧巻は八ヶ岳連峰だ！すそ野が広く、全体がすっきりと見えた。「日本百名山」の著者、深田久弥は、「まず私たちの目を喜ばせるのは広いすそ野を広げた八ヶ岳である。全く広い。・・・」と書いている。帰路は計画通り、往路と同じ道の「ピストン」。山道の傾斜は帰路のほうが分かりやすい。登り始めの傾斜は結構な急勾配だった。(小松記)